

高山市第八次総合計画 施策評価シート

第八次総合計画	基本分野	3 教育・文化	基本目標	生きがいと誇りを持ち豊かな心を育むまち	個別分野	学校教育	
	主要課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の確かな学力の定着、望ましい人間関係を築く力の向上を図る必要があります。 ・特別支援教育をはじめ、すべての子どもの自立と社会参加を目指して、就学前から卒業後までを見据えた教育を行う必要があります。 ・児童生徒のひきこもりやいじめなどの未然防止や早期発見、早期対応に取り組む必要があります。 ・家庭、地域、学校が協働して児童生徒を育む体制づくりをすすめる必要があります。 ・多発する自然災害や経済格差の拡大などに対応し、安全・安心な教育環境(施設、給食、通学路、就学支援など)づくりを行う必要があります。 ・児童生徒数の減少に対応できる、長期的・総合的な視点に立った学校経営をしていく必要があります。 					
	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自ら学び、考え、行動する力(知・徳・体)を育む教育が行われています。 ・地域全体で子どもの郷土教育が行われています。 ・誰もが安全で安心して教育が受けられる環境が整っています。 					
	取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質の向上、外国語教育や特別支援教育の充実などにより児童生徒自ら学び考える力の育つ教育を推進します。 ・規範意識と関係性を重視した指導、いじめ・ひきこもりを生まない指導や支援などにより豊かな心を育む教育を推進します。 ・児童生徒の健康の維持管理や安全でおいしい学校給食の提供などにより健やかな体を育む教育を推進します。 ・子ども教育参画会議など地域の支援体制の充実やキャリア教育の充実などにより地域全体で郷土教育の推進を図ります。 ・環境や安全性に配慮した学校施設の整備、就学が困難な児童生徒などへの支援、家庭や地域と連携した相談体制の充実により学びのセーフティネットの構築を図ります。 					
対応する総合戦略事業※	基本目標		具体的な施策			主な事業	

※高山市まち・ひと・しごと創生総合戦略

1 指標の推移

指標名	単位	まちづくり指標	市民満足度指標	総合戦略基本目標	総合戦略KPI	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	
													H31(中間)	R6
1 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	%	●				小 83.2 中 74.1	小 83.2 中 74.1	小 84.4 中 77.1	小 87.6 中 72.9	小 87.5 中 75.0	小 87.2 中 74.1	小 86.0 中 69.3	100	100
2 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	%	●				小 78.9 中 72.3	小 78.9 中 72.3	小 81.1 中 71.2	小 83.4 中 72.8	小 83.1 中 69.3	小 79.9 中 71.2	小 83.7 中 74.7	100	100
3 小中学校校舎の非構造部材耐震化率	%	●				42.2	42.2	49.4	49.4	49.4	55.4	55.4	60	80
4 「学校・家庭・地域が連携した児童生徒の教育環境が整っている」と感じている市民の割合	%		●			-	63.9	-	63.5	66.7	66.6	63.7	↗	↗

2 市民アンケートの結果

	市の取り組みに対する満足度				今後の重要課題							
	「学校・家庭・地域が連携した児童生徒の教育環境が整っている」と感じている市民の割合				学校教育や生涯学習の充実				郷土への「誇り」・「愛着」の醸成			
H26	回答比率	63.9%	順位 (34項目中)	12位	回答比率	6.3%	順位 (20項目中)	16位	回答比率	3.3%	順位 (20項目中)	18位
H28	回答比率	63.5%	順位 (34項目中)	12位	回答比率	7.2%	順位 (20項目中)	14位	回答比率	3.6%	順位 (20項目中)	18位
H29	回答比率	66.7%	順位 (34項目中)	11位	回答比率	7.7%	順位 (20項目中)	11位	回答比率	3.5%	順位 (20項目中)	17位
H30	回答比率	66.6%	順位 (34項目中)	11位	回答比率	6.5%	順位 (20項目中)	12位	回答比率	3.2%	順位 (20項目中)	18位
H31	回答比率	63.7%	順位 (36項目中)	11位	回答比率	8.8%	順位 (20項目中)	9位	回答比率	2.5%	順位 (20項目中)	18位
R2	回答比率	67.5%	順位 (36項目中)	12位	回答比率	7.2%	順位 (20項目中)	11位	回答比率	1.9%	順位 (20項目中)	19位
順位の変化に見る現状の評価	特定の傾向は読み取れない											
R2の調査結果に見る施策の方向性	満足度の順位が上位で、重要度の順位は下位 → <維持>重要度は高い水準にはないため、事業を継続しながら、内容の工夫等により対応すべき											

3 総合計画の取り組みの概要(総合戦略を含む)

施策	施策の内容	★総合戦略の対応箇所	これまでの取り組み	担当局
			取り組み内容(戦略に対応する項目には★印)	
(1) 自ら学び考える力の育つ教育の推進	1 指導主事の学校訪問や大学との連携、教育研究所を活用した教員研修などによる教員の資質の向上		・指導主事が学校訪問し、教職員への指導を行うとともに、指導力向上に資する職員研修を行った。 ・教育研究所にて、校長・教頭・教務主任研修会等を行った。	教育委員会
	2 小学校における英語教育や中学校における英語でのコミュニケーションを重視した英語授業(AllEnglish)の実施などによる外国語教育の充実		・外国語指導助手は、概ね小学校全学級全時間、中学校全学級週2時間訪問し、担任や英語科教員と連携した外国語教育を行った。	教育委員会
	3 公立図書館との連携などによる学習・情報・読書センターとしての学校図書館の充実		・市図書館と連携し、図書館指導員とともに読書に親しめる環境づくりをすすめる、学習・情報・読書センターとして活用できる図書館づくりを行った。	教育委員会
	4 学力テストや意識調査の活用などによる個別指導の充実		・学力テストを中心とする各種テストや学力テスト時の意識調査結果を活用した個別指導を行った。	教育委員会
	5 情報通信関連機器など教具・教材の整備や小学校・中学校の連携・一貫などによる授業の充実		・小学校の電子黒板の導入やパソコン教室のパソコン整備、またデジタル教科書等の教材の整備を充実させ、学習環境を整えるための公開授業等を行った。	教育委員会
	6 就学前から卒業後まで見据えた個々の能力や特性を発揮できる特別支援教育の充実		・幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校、中学校と高等学校など就学前から卒業までを見据えた切れ目のない支援を行った。	教育委員会
(2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	1 道徳教育や部活動、特別活動などによる規範意識と関係性を重視した指導の充実		・特別の教科道徳が始まり、より良く生きるための基盤となる道徳性を養うことができた。 ・部活動等においても集団活動に自主的に取り組み、集団や社会における生活及び人間関係の形成をすすめた。	教育委員会
	2 あたたかな人間関係づくりのための心理検査を活用した学級経営や児童会・生徒会サミットなどによるいじめやひきこもりを生まない指導や支援の充実		・あたたかな人間関係づくりのための心理検査を活用し、早めの支援体制を整えることで学級経営がスムーズになった。	教育委員会
	3 嘱託医が行う健康診断などによる児童生徒の健康の維持管理		・毎年1回の健康診断により、児童生徒の健康の維持管理を行った。	教育委員会
	4 幼稚園・保育園・小学校の連携などによる生活習慣等に関する指導の充実		・各保育園等において、食育・眠育に取り組んだ。 ・就学前に目指す生活習慣の姿に向けた取り組みとして、就学時健康診断の前後に、「朝のスタートプラン」を実施することで、幼保小及び家庭との連携した取り組みを行った。	福祉部 教育委員会
	5 食育などによる健全な食生活の指導の充実		・平成29年度に食育推進計画(第3次)を策定した。 ・小中学生を対象とし、食生活改善推進員による学習会を実施した。 ・栄養教諭、養護教諭等が中心となり、食事の大切さや食育などの指導を充実させた。 ・毎月の給食だよりの発行や給食試食会での講話を通して、保護者に対する正しい食生活の啓発を実施した。	市民保健部 教育委員会
	6 地域の個性を活かした安全でおいしい学校給食の提供		・食材はより安全性の高いものを選定し、衛生面に配慮しながら、児童生徒に安全安心で栄養バランスのとれた魅力ある給食を提供した。 ・アレルギー対応の必要な児童生徒に対しては、学校生活管理指導表を用いて学校、保護者、給食センターで連携を取り、きめ細かい対応を行った。 ・地場産品を使用した献立や、伝統料理の献立などを提供し、飛騨の食文化を学習する機会を提供した。	教育委員会
教(3) 地域全体の協働による郷土の推進	1 地域や学校が持つ特性・特長を活かした教育活動の推進		・地域が持つ特性を活かした活動を推進し、地域に根ざした郷土教育をすすめることができた。	教育委員会
	2 地域の人材の活用などによる地域の発展を目指した郷土学習の充実		・平成29年度に生涯学習人材登録制度を創設し、学んだ知識や経験を地域の課題解決や魅力づくりにつなげる「たかやま人材リスト」への登録や活用促進につながる啓発活動を行った。 (H31 登録:82件、活用:21回 966人参加) ・特色ある学校経営を遂行するために、地域人材を活用した講師を依頼するなど地域に根ざした教育を推進した。	市民活動部 教育委員会
	3 子ども教育参画会議や子ども教育地域連携協議会との連携による地域の支援体制の充実		・学校運営協議会設立に向けて、子ども教育参画会議やまちづくり協議会など地域連携協議会等と連携し、調整を図った。	教育委員会

(3) 地域全体の協働による郷土教育の推進

4	PTAの活性化の促進や連携の強化		・高山市PTA連合会活動への支援を行った。 ・地域や学校、PTAが主体となった家庭教育講座開催に伴う支援を行った(H31 224回)。	市民生活部
			・PTA主催の講演会の開催や救命講習の実施など地域貢献を含めた事業を積極的に行った。	教育委員会
5	学校評議員や地域の見守り隊、市民活動団体などの連携の強化		・まちづくり協議会の主体的な取り組みに対し協働のまちづくり支援金を交付し、活動を支援した。 ・市民活動団体とまちづくり協議会などの協働の促進を目的に、協働のまちづくりフォーラムを開催した。 ・市民活動団体とまちづくり協議会などの協働を促進するため、市民活動事業補助金を拡充した。	市民活動部
			・地域の特徴を生かした学校経営の工夫など、学校評議員による学校評価を基に、学校経営をより良くすすめることができた。	教育委員会
6	幼稚園・保育園・小学校などの交流や連携の強化		・幼保小連携協議会を中心に、就学や引継ぎを円滑に行うための交流や情報交換を実施した。 ・子ども発達支援センターを設置し、支援が必要な児童の幼保から小への丁寧な引き継ぎを実施した。	福祉部
			・年2回の幼保小連携会議、各地区での障がい児教育支援委員会の他、学校から数名の教員が入学予定者のいる保育園等に訪問し、子どもの様子を早めに認識することができた。	教育委員会
7	ESD(持続可能な開発のための教育)の視点を取り入れた防災・環境・平和等に関する教育や交流・体験活動などの推進		・市内31小中学校が継続してユネスコスクールに加盟しており、ESDを含む「SDGs」の推進に向けて防災教育や平和学習・環境教育を推進した。	教育委員会
8	廃校となった学校の歴史を将来に伝えることなどによる地域の誇りと愛着の醸成		・朝日地域の学校では、総合学習で廃校となった地域の特産品を調べたほか、文化祭で各学校の校歌をメドレーで歌った。 ・丹生川地域の学校では地域の方が記念式典に向けて廃校となった学校についてまとめるなど、将来に伝える活動を行っている。	教育委員会
9	職業体験や企業経営者の講話などによるキャリア教育の充実		・中学校において、ロータリークラブ等の協力を受けて出前講座を行い、地元で働く方々から直接働くことの意義や思いを聞くキャリア教育を充実させた。	教育委員会
(4) 学びのセーフティネットの構築	1	自然エネルギーの活用や木材使用などによる環境や安全性に配慮した学校施設や机・椅子などの整備	・学校施設の改修において地域産材や自然エネルギーを利用し、環境に優しい学校となるように改修を行った。 ・木の温もりが感じられる地域産材の木製机・椅子の更新を行った。	教育委員会
	2	安全性や地元食材の使用などに配慮した学校給食施設の整備	・食物アレルギーに対応する等安全安心な学校給食施設を整備するため、施設の整備場所を選定し、施設の統廃合等の検討を行った。	教育委員会
	3	通学路照明灯の整備や通学路安全推進会議の開催などによる安全・安心な通学環境の確保	・通学路照明のLED化をすすめるとともに、高山市通学路安全推進会議の関係機関が連携し、通学路の安全対策を検討・実施した。	教育委員会
	4	幼稚園の運営や就園への支援などによる幼児教育の充実	・幼稚園に対する就園奨励費、施設型給付費等の支援により、幼児教育を受けやすい環境を整えた。 ・令和元年10月からの幼児教育の無償化に際し、適切な対応を行った。	教育委員会
	5	高等教育機関の運営への支援や連携強化などによる高等教育などの充実	・私立学校や定時制・通信制の高等学校への助成により、教育の振興と教育費負担の軽減を図った。	教育委員会
	6	教育的配慮を基本とした学区の見直し、小学校・中学校一貫校のあり方などの研究	・教育振興会議を設置し、学校の適正規模、適正配置に関する研究をすすめたほか、教育委員会や通学審議会等において議論を重ねた。	教育委員会
	7	経済的な理由や障がいなどで就学が困難な児童生徒への支援	・保護者の収入等に応じ、必要な学用品費等や学校給食費を援助した。	教育委員会
	8	であい塾の運営や相談体制の充実などによる不登校児童生徒の学級復帰への支援	・であい塾の運営や相談体制の充実などにより、不登校児童生徒の居場所づくりを行った。	教育委員会
	9	発達障がいなどがある子どもに対する幼児期からの支援体制の充実	・子ども発達支援センターを設置し、相談支援や発達検査、園訪問、障がい児通所支援など幼児期からの適切な支援を実施した。	福祉部
			・子ども発達支援センターの専門員による訪問等、幼児期からの支援体制の充実を図った。	教育委員会
	10	スクールカウンセラーや保健相談員、教育相談員などによる家庭や地域と連携した相談体制の充実		・悩みを抱える児童生徒に対し、スクールカウンセラーによる家庭や地域と連携した相談体制を充実させた。
11	保健・福祉・教育の連携などによる子どもの成長過程に応じた切れ目のない支援体制の充実	・子ども発達支援センターを設置し、相談支援や発達検査、園訪問、障がい児通所支援など、子どもの成長過程に応じた途切れのない支援を実施した。	福祉部	
		・母子健康包括支援センターの設置に向けて、関係課に必要な情報の共有を行った。	市民保健部	
		・サポートブックの活用により、家庭を含めた一貫した支援が可能となった。	教育委員会	

4 担当部局による総合計画の評価

担当部局	教育委員会／福祉部／市民保健部／市民活動部	
施策	第八次総合計画の検証(成果と課題)	今後の取り組み・方向性
(1) 自ら学び考える力の育つ教育の推進	<p>【教育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館指導員を全校配置し、読み聞かせや授業の資料提供など読書センター、学習センター、情報センターとしての機能が高まった。 夏のイングリッシュシャワーや秋のハロウィンイングリッシュシャワーなどの活動を通じて、児童生徒が積極的にコミュニケーションを体験する機会を提供することができた。 各校の取り組みを多くの人に周知するために、学校のホームページの内容を充実させる必要がある。 小学校への電子黒板・デジタル教科書やパソコンのタブレット化などにより、児童生徒の学習の充実につながった。 	<p>【教育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の機能を更に充実させるために、心を豊かにする読書や自ら学ぶことができる調べ学習の充実をすすめる。 電子黒板やデジタル教科書の配置などにより、児童・生徒の情報活用能力の育成と教育の質の向上を図る。
(2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	<p>【教育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食時の食生活指導や地産地消による地元食文化の学習により、食育を推進した。 様々な教育的配慮を必要とする児童生徒の支援のために保健相談員、特別支援員の配置基準を見直した。 幼保小の連携により、生活習慣の定着に関する指導を的確に行った。 いじめなどの差別や偏見に対して、互いの人権を守り行動できる力をさらに育てる必要がある。 <p>【福祉部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園において、給食での地元食材や郷土食の提供、生活習慣を学ぶ機会の提供などにより、食育や眠育を推進した。 <p>【市民保健部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児健診や相談事業、検診結果説明会、出前講座などでのバランス食の学習を実施し、食育を推進した。 	<p>【教育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の個性を生かした給食の提供により食育を推進する。 自分の個性とともに他の人の個性を認めることができるよう、学校生活のあらゆる場面において互いの良さを認め合う活動を充実し、思いやりを育む教育を推進する。 キャリアパスポートを活用して、自己の成長を促す教育を推進する。 いじめ防止アドバイザー等の派遣により、いじめの未然防止や早期対応を図る。 地域と協働し、公共の精神を養い、集団の中で自己を活かす活動を推進する。 <p>【福祉部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食や生活習慣を学ぶ機会の提供などを通じて、食育や眠育の推進を図る。 <p>【市民保健部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、健診や相談事業などの様々な機会を捉え、食育を推進する。
(3) 地域全体の協働による郷土教育の推進	<p>【教育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の学校の特性を活かした学校経営を支援し、郷土に根ざした教育を推進した。 命を守る訓練や地域との協働による避難訓練を実施し、防災体制の充実を図った。 郷土の歴史や風土、地域の生き方を学ぶことにより、郷土に愛着と誇りを持つことができた。 コミュニティスクール(学校運営協議会)を導入し、地域と協働した教育活動をすすめるための準備を整えることができた。 <p>【市民活動部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域内の連携による取り組みがすすみつつある。 協働のまちづくりを促進するため、市民理解の促進や多様な主体による協働の仕組みづくり、地域活動を担う人材育成などに取り組む必要がある。 市民や団体等が持つ豊かな知識や技術、経験を、地域の課題解決に活かし、生きがいにつながる活躍の場として、生涯学習人材登録制度「たかやま人材リスト」の登録件数の増加や活用促進に向けた啓発を行った。 地域や学校、PTAが主体となった家庭教育講座開催に対する支援を行った。 <p>【福祉部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園や保育園から小学校にかけての途切れのない支援のため、園訪問で得た情報などの学校との共有により、児童の適切な就学につなげることができた。 	<p>【教育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校と保護者、地域住民組織などが協働・連携するコミュニティスクールを推進する。 <p>【市民活動部】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくりに参画する人材育成に向けた研修会や協働のまちづくりフォーラムの開催、市民活動団体の組織化、団体の自立、協働の促進を目的とした支援などにより、多様な主体による協働のまちづくりを推進する。 まちづくり協議会等との連携を強化し、「たかやま人材リスト」の活用による郷土学習の充実をすすめる。 地域や学校、PTAと連携した家庭教育を推進する。 <p>【福祉部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども発達支援センターの専門員による園訪問の継続実施やサポートブックの活用促進を図る。
(4) 学びのセーフティネットの構築	<p>【教育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設の維持修繕や環境に配慮した大規模改修、通学路の安全確保により、安全で安心な教育環境を整備した。 幼児・私学教育等への助成により、教育機会の均等と教育費負担の軽減が図られた。 子ども110番や地域見守り活動の推進、警察など関係機関との連携により、子どもの安全確保を図った。 経済的な理由により学用品費等や学校給食費の支払いが困難と認められる児童生徒に必要な援助を行った。 支援を必要としている児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、保健相談員等の配置を行い支援体制の充実を図った。 特別支援学級の異学年が混在するクラスの児童生徒一人ひとりにタブレットを配置し、積極的に社会参加できる力、自立する力を育成した。 <p>【福祉部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども発達支援センターを設置し、保健・福祉・教育分野の専門員を配置することで、各分野間の連携を深めるとともに、子どもの成長段階に応じた途切れのない支援の体制整備を行った。 <p>【市民保健部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 母子健康包括支援センターの設置に向けて、関係課での状況共有を図った。 	<p>【教育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設点検と修繕、計画的な施設改修により、安全で安心な教育環境の確保を図る。 教育費に対する支援により、市民の教育機会の均等を図る。 教職員の働き方を見直し、ゆとりを持って児童生徒に対応できる環境づくりをすすめる。 不登校児童生徒ががえい塾を利用しやすくするための環境の整備をすすめる。 <p>【福祉部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども発達支援センターの充実を図り、全ての子どもを対象とした発達支援を推進する。 <p>【市民保健部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 母子健康包括支援センターを設置し、切れ目のない子育て支援体制の充実を図る。

高山市第八次総合計画 施策評価シート

第八次総合計画	基本分野	3 教育・文化	基本目標	生きがいと誇りを持ち豊かな心を育むまち	個別分野	生涯学習
	主要課題	・多様な個性・能力を伸ばし、自己の知識・技能・経験を高める、一人ひとりの自発的な学習活動をすすめる必要があります。 ・学んだ成果を社会に還元する仕組みを構築する必要があります。				
	目指す姿	・すべての市民の自発的な学びや家庭・地域を大切にする意識が、豊かで活力あるまちづくりに活かされています。				
	取り組みの方向性	・学習情報や学習機会の提供、施設の利便性の向上と利用の促進などにより学習機会の充実を図ります。 ・家庭教育への支援や青少年の健全育成、郷土の歴史や文化等について学ぶ機会の充実などにより家庭や地域を大切にする意識の高揚を図ります。 ・人材の育成や社会的・地域的課題を学ぶ機会の充実などにより学習成果の活用を推進します。				
戦略事業※ 対応する総合	基本目標		具体的な施策			主な事業
	1. 飛騨高山にひとを呼び込む		(5) 大学連携の推進			① 大学連携の強化

※高山市まち・ひと・しごと創生総合戦略

1 指標の推移

指標名	単位	まちづくり指標	市民満足度指標	総合戦略基本目標	総合戦略KPI	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	
													H31(中間)	R6
1 生涯学習講座参加者数(年間)	人	●				649	358	1,004	730	324	182	252	1,100	1,300
2 家庭教育に関する各種学習機会への参加者数(年間)	人	●				37,563	33,190	21,666	39,078	51,073	47,314	51,206	38,000	38,500
3 まちづくり活動の実践講座への参加者数(年間)	人	●				-	-	141	166	254	160	55	60	120
4 図書館来館者数(年間)	人	●				465,506	432,093	444,296	412,455	411,836	415,046	401,185	470,000	500,000
5 「生涯学習に取り組む機会や学習成果を活かすことができる環境が整っている」と感じている市民の割合	%	●				-	44.3	-	43.2	43.9	42.4	39.6	↗	↗
6 大学教授や学生の受け入れ	人			●		-	-	-	-	1,161	1,472	1,997	-	-

2 市民アンケートの結果

	市の取り組みに対する満足度				今後の重要課題			
	「生涯学習に取り組む機会や学習成果を活かすことができる環境が整っている」と感じている市民の割合				学校教育や生涯学習の充実			
H26	回答比率	44.3%	順位 (34項目中)	25位	回答比率	6.3%	順位 (20項目中)	16位
H28	回答比率	43.2%	順位 (34項目中)	26位	回答比率	7.2%	順位 (20項目中)	14位
H29	回答比率	43.9%	順位 (34項目中)	27位	回答比率	7.7%	順位 (20項目中)	11位
H30	回答比率	42.4%	順位 (34項目中)	26位	回答比率	6.5%	順位 (20項目中)	12位
H31	回答比率	39.6%	順位 (36項目中)	26位	回答比率	8.8%	順位 (20項目中)	9位
R2	回答比率	43.8%	順位 (36項目中)	28位	回答比率	7.2%	順位 (20項目中)	11位
順位の変化に見る現状の評価	満足度の順位が下降、重要度の順位が上昇 → 課題があり、改善が強く望まれている							
R2の調査結果に見る施策の方向性	満足度の順位が下位で、重要度の順位は下位 → <改善>満足度、重要度とも高い水準にないため、事業を継続しながら、内容の工夫等により対応すべき							

3 総合計画の取り組みの概要(総合戦略を含む)

施策	施策の内容	★総合戦略の対応箇所	これまでの取り組み		
			取り組み内容(戦略に対応する項目には★印)	担当部局	
(1) 学習機会の充実	1	多様な情報媒体の活用や公民館登録団体の紹介などによる学習情報の提供		・広報、ホームページ、メール配信サービスなどを活用し、各種講座や公民館登録団体、人材登録リストなどの学習情報を提供した。	市民生活 動部
	2	本庁・支所・図書館での相談対応などによる学習相談体制の充実		・施設での学習情報の提供により、市民等からの問合せに対応した。	市民生活 動部
	3	出前講座の開催や生涯学習講座の充実、子どもの夢の実現に向けた体験事業の実施、放送大学岐阜学習センター高山分室の運営、本に親しむ機会の提供などによる学習機会の提供		・市職員が講師として出向き、政策の説明などを行う「たかやま出前講座」や生涯学習講座を実施した(H31 参加者数延べ24,106人)。 ・子ども達の科学に対する関心やものづくりを通じた職業意識を高めるため、高校や短大、企業の協力のもと体験事業を実施した(H31参加者数延べ762人)。 ・ライフスタイルに合わせて学ぶことができる放送大学岐阜学習センター高山分室の管理運営を行った。 ・子ども読書活動推進計画(第三次)を策定した。 ・市図書館において「おはなし会」や各種講座などの読書推進事業を実施した。	市民活動 部
	4	オープンカレッジの開催などによる大学や民間と連携した専門性のある学習機会の提供		・飛騨・世界生活文化センターで実際の大学の講義が受けられるオープンカレッジを開催した(H31参加者数延べ850人)。	企画 部
	5	サテライトキャンパスの設置などによる大学誘致に向けた取り組みの推進	1. 飛騨高山にひとを呼び込む (5) 大学連携の推進 ① 大学連携の強化 ・さらなる大学連携の強化を図り、若者のUターンや地元定着を促進するため、本市と連携協定を締結する大学との連絡会議の開催、連携大学等が共同で活用できるサテライト機能を持つ場(スペース)の設置、連携大学・企業等との連携によるインターンシップ活動の促進などを進める。	★平成29年6月に(一財)飛騨高山大学連携センターを設立した。 ★大学活動を誘致する大学ミッション事業により、平成29年度から31年度にかけて4,630人の大学教授や学生を受け入れた。	企画 部
	6	公民館や図書館等の整備などによる施設の利便性の向上と利用の促進		・定期点検による施設の安全管理や計画的な修繕・改修を実施し、施設を適正に管理した。 ・利便性の向上と利用促進に向け、施設利用者や施設管理者との意見交換会を開催した。	市民生活 動部
(2) 家庭や地域を大切に する意識の高揚	1	地域における家庭教育についての情報交換や相談ができる場づくりの促進、PTA活動への支援、家庭教育講座の充実などによる家庭教育への支援		・家庭や地域との関わりの中で教え学び合い、つながりのある家庭教育をめざして講座や講演会を開催した。 ・地域や学校、PTAが主体となった家庭教育講座の開催に対する支援を行った。	市民活動 部
	2	少年の主張コンクールの開催や子ども教育参画会議との連携、子ども会活動の活性化などによる青少年の健全育成		・子ども会育成連絡協議会、青少年育成市民会議、少年補導センターの活動に対する支援を行った。 ・次代を担う子どもたちに物事を理論的に考える力や自らの主張を伝える力を育成するため、少年の主張コンクールを開催した。 ・12中学校区ごとに新成人を祝うついで実行委員会を組織し、式典を開催した(H31 855人)。 ・宮っ子育む会などの子ども教育参画会議と連携し、朝の登校の見守り活動を通して青少年の健全育成を図った。	市民活動 部 教育 委員 会
	3	郷土学習講座の開催や市民憲章の理念の具現化を図る活動の促進などによる郷土の歴史や文化等について学ぶ機会の充実		・市民憲章推進協議会の活動を通じて、郷土の歴史や文化に触れる機会を提供した。 花いっぱい運動(H31:279団体) 文化講演会(H31参加者数300人) 版画年賀状づくり講習会及びコンクール(H31応募251点) 歴史文化施設無料公開(H31:32施設) ・生涯学習講座や生涯学習施設において、めでの講座や料理教室など郷土の文化や歴史を学ぶ講座を開催した。	市民活動 部
(3) 学習成果の活用	1	まちづくり活動の実践講座の開催などによる人材の育成		・まちづくり協議会の防災や福祉担当者等の事業実践者を対象とした講座、研修会を開催した。 ・若者の地域活動への参画や企画力向上を目的とした研修会を開催した。 ・生涯学習講座や生涯学習施設において、めでの講座や料理教室など郷土の文化や歴史を学ぶ講座を開催した。	市民活動 部
	2	講師派遣や出前講座の開催などによる社会的・地域的課題を学ぶ機会の充実		・まちづくり協議会が実施する人材育成の取り組みに対し、講師を派遣した。 ・市職員が講師として出向き、政策の説明などを行う「たかやま出前講座」や生涯学習講座を実施した(H31 延べ参加者24,106人)。	市民活動 部

3	地域課題の解決に向けた実践事例を検討する場の創出や人材登録制度の創設などによる学習成果をまちづくりに活かす仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会代表者による「まちづくり協議会円卓会議」、事務局による「まちづくり協議会連絡会議」を設置し、取り組みの情報共有や意見交換を行った。 ※「まちづくり協議会円卓会議」は「協働のまちづくり推進会議」に機能を移行 ・生涯学習人材登録制度を創設(H29年度)し、学んだ知識や経験を地域の課題解決や魅力づくりにつなげる「たかやま人材リスト」への登録や活用促進につながる啓発活動を行った。 (H31 登録:82件、活用:21回 966人参加) 	市民活動部
4	各地区のまちづくり協議会などとの協働による社会教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会の主体的な取り組みに対し、協働のまちづくり支援金を交付し、活動を支援した。 ・社会教育委員とまちづくり協議会との連携を図り、地域づくり型生涯学習を推進するための社会教育委員による現地視察を実施した。 ・協働による社会教育活動の充実を図るため、県や飛騨地区が開催する研修会に社会教育委員とまちづくり協議会関係者が積極的に参加した。 	市民活動部

4 担当部局による総合計画の評価

担当部局		市民活動部／企画部／教育委員会	
施策	第八次総合計画の検証(成果と課題)	今後の取り組み・方向性	
(1) 学習機会の充実	<p>【市民活動部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な情報媒体を活用した学習情報の提供や各種講座の開催、放送大学岐阜学習センター高山分室の管理運営などによる学習機会の提供、生涯学習施設の適正な管理による利便性の向上や利用促進を図った。 ・子どもが科学やものづくりを通じて将来の夢を育むとともに、人材育成につながるような体験活動を行った。 <p>【企画部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内でオープンカレッジを開催したことにより、多くの市民に実際の大学の講義を受けられる機会を提供できた。 ・(一財)飛騨高山大学連携センターによる大学活動への支援により、多くの大学教授や学生を高山へ呼び込むことができた。 ・より多くの大学と連携し、市民の学習機会の充実につなげる必要がある。 	<p>【市民活動部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習情報や学習機会の提供に努めるとともに、地域づくりにつながる講座の開催を推進する。 ・生涯学習施設の安全な管理運営のための計画的な修繕・改修の実施により、生涯学習の拠点としての機能を維持する。 ・子どもが将来の夢を育み、人材の育成につながるような体験活動を実施するとともに、高校、大学、企業が参画した多様な体験活動の充実を図る。 <p>【企画部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の講義が受けられるオープンカレッジの開催により、学習機会を提供する。 ・(一財)飛騨高山大学連携センターと連携し、大学活動の誘致に取り組む。 	
(2) 家庭や地域を大切にす意識の高揚	<p>【市民活動部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高山市民憲章の具現化に向け、花いっぱい運動、環境整備、文化講演会などの取り組みにより、家庭や地域を大切にす意識の高揚が図られた。 ・家庭・学校・地域とのつながりを意識しながら、保護者が学ぶ家庭教育講座や講演会等を開催するとともに、青少年の健全育成を目指す団体と連携、協力しながら、事業や活動を実施することができた。 ・生涯学習講座や生涯学習施設において、郷土の文化や歴史について学ぶ機会を提供し、郷土への愛着や地域を大切にす意識の高揚が図られた。 <p>【教育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども教育参画会議と連携した登校の見守り活動などにより、地域と連携した青少年の健全育成を図った。 	<p>【市民活動部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より一層の高山市民憲章の具現化に向けた取り組みを推進する。 ・保護者の学びを大切にす家庭教育講座等を開催し、家庭教育の促進を図る。 ・家庭・学校・地域が連携し、子どもを育むことができるよう関係者との連携を強化する。 ・少子高齢化がすすむなかで、青少年育成団体の運営や支援のあり方について検討をすすめる。 ・引き続き、郷土や地域について学ぶ機会を提供し、市民の郷土への愛着や地域を大切にす心を育む。 <p>【教育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校を単位としたコミュニティ・スクールを設置し、学校、地域、家庭が一体となって子どもを育むことができるような連携の強化を図る。 	
(3) 学習成果の活用	<p>【市民活動部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全、安心がまちづくりの基礎」とのまちづくり協議会の共通認識のうえで、各地域において、地域独自の防災訓練の実施や勉強会、見守りなどの事業が展開されている。 ・協働のまちづくりを促進するため、より一層の市民理解の促進、多様な主体による協働の仕組みづくり、地域活動を担う人材育成に取り組む必要がある。 ・「たかやま出前講座」の開催や学習情報の提供などにより、社会的・地域的課題を学ぶ機会を提供した。 ・市民や団体等が持つ豊かな知識や技術、経験を、地域の課題解決を図りながら魅力あるまちづくりに活かし、また、生きがいにつながる活躍の場として、生涯学習人材登録制度「たかやま人材リスト」の登録件数の増加や活用促進を図った。 	<p>【市民活動部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会が地域課題の解決など主体的に取り組む活動に対する支援を行う。 ・まちづくりに参画する人材育成に向けた研修会や協働のまちづくりフォーラムの開催を通じて、多様な主体による協働を推進する。 ・収集・整理した学習情報を提供するしくみや、自ら学んだ成果を地域課題の解決や地域の魅力づくりにつなげる環境づくりをすすめる。 ・まちづくり協議会等との連携を強化し、地域における社会教育活動において「たかやま出前講座」や「たかやま人材リスト」の活用を促し、地域づくり型生涯学習を推進する。 	

高山市第八次総合計画 施策評価シート

第八次総合計画	基本分野	3 教育・文化	基本目標	生きがいと誇りを持ち豊かな心を育むまち	個別分野	スポーツ	
	主要課題	・余暇時間の増大や健康志向の高まりから、誰もが日常生活の中で無理なく身体活動や運動に取り組むことができる環境を整える必要があります。 ・平成32(2020)年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定を契機に、飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア内の施設や受入体制を早急に整備する必要があります。					
	目指す姿	・市民が様々な形で日常的にスポーツに親しみ、心身ともに健やかに暮らしています。 ・スポーツ活動を通じて新たな交流・ふれあいの機会が創出され、人や地域の結びつきが強まっています。					
	取り組みの方向性	・健康増進のためのスポーツ機会の創出や競技スポーツ環境の整備などによりスポーツ活動の充実を図ります。 ・施設の安全性・利便性の向上や利用促進などによりスポーツ利用環境の整備をすすめます。 ・受入機能の強化や科学的トレーニング普及啓発活動の推進、アスリートと地域住民との交流の促進などにより高地トレーニングエリアの整備を促進します。					
対応する総合戦略事業※	基本目標		具体的な施策			主な事業	
	1. 飛騨高山にひとを呼び込む		(2)スポーツ環境、保養環境等の整備			①コンベンション誘致の推進	
1. 飛騨高山にひとを呼び込む		(2)スポーツ環境、保養環境等の整備			②高地トレーニングエリアの整備・活用		

※高山市まち・ひと・しごと創生総合戦略

1 指標の推移

指標名	単位	まちづくり指標	市民満足度指標	総合戦略基本目標	総合戦略KPI	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	
													H31(中間)	R6
1 スポーツ施設利用者数(年間)	人	●				509,806	520,373	521,343	536,583	539,807	527,084	484,746	550,000	550,000
2 成人の週1回以上のスポーツ実施率(アンケート調査)	%	●				37.0(H19)	-	-	-	-	-	32.1	65	65
3 国際・全国大会出場者数(年間)	人	●				218	279	270	247	316	300	161	250	280
4 ブロック(中部・東海等)レベル以上の大会開催数(年間)	大会	●				12	9	11	9	13	10	12	15	20
5 高地トレーニングエリア施設利用者数(年間)	人	●			●	14,819	16,576	17,431	16,420	17,196	16,737	15,952	20,000	25,000
6 「スポーツをしたり、楽しんだりできる環境が整っている」と感じている市民の割合	%		●			-	48.6	-	48.1	45.5	43.1	47.5	↗	↗
7 コンベンション誘致件数(年間)	件				●	47	69	56	72	81	80	81	90	

2 市民アンケートの結果

	市の取り組みに対する満足度				今後の重要課題			
	「スポーツをしたり、楽しんだりできる環境が整っている」と感じている市民の割合							
H26	回答比率	48.6%	順位 (34項目中)	22位	回答比率		順位 (20項目中)	
H28	回答比率	48.1%	順位 (34項目中)	22位	回答比率		順位 (20項目中)	
H29	回答比率	45.5%	順位 (34項目中)	25位	回答比率		順位 (20項目中)	
H30	回答比率	43.1%	順位 (34項目中)	25位	回答比率		順位 (20項目中)	
H31	回答比率	47.5%	順位 (36項目中)	22位	回答比率		順位 (20項目中)	
R2	回答比率	48.2%	順位 (36項目中)	21位	回答比率		順位 (20項目中)	
順位の変化に見る現状の評価	満足度の順位が上昇しており、取り組みがすすんでいると感じる市民が増えている							
R2の調査結果に見る施策の方向性	満足度の順位が下位 → <改善>事業の実施方法・内容等について再確認し、満足度の水準を引き上げるべき							

3 総合計画の取り組みの概要(総合戦略を含む)

施策	施策の内容	★総合戦略の対応箇所	これまでの取り組み	
			取り組み内容(戦略に対応する項目には★印)	担当部局
(1) スポーツ活動の充実	1 軽スポーツの普及などによる健康増進のためのスポーツ機会の創出		・スポーツ推進委員、関係団体と連携し、市民が気軽にスポーツを行う場を提供した。 軽スポーツ広場の開催 障がい者スポーツ体験の実施 スポーツ推進委員の資格取得を支援	市民活動部
	2 体育協会等と協働したスポーツ教室やスポーツイベントの開催などによる競技スポーツの普及		・体育協会が主催するスポーツ教室の開催を支援した。 ・トップレベルの選手によるスポーツ教室を開催した。 ハンドボール(飛騨高山ブラックブルズ岐阜)、サッカー(FC岐阜)、長距離走、卓球、バレーボール、ソフトテニス、剣道教室、陸上クリニック(青山学院大学) ・市内ゴルフ場と連携し、小学生を対象としたゴルフ教室を開催した。	市民活動部
	3 幼児期からスポーツに親しむ機会の創出や子どもたちが様々なスポーツに取り組むことができる環境づくりの推進などによる子どもの競技人口の維持拡大		・トップレベルの選手によるスポーツ教室を開催した。 ハンドボール(飛騨高山ブラックブルズ岐阜)、サッカー(FC岐阜)、長距離走、卓球、バレーボール、ソフトテニス、剣道教室、陸上クリニック(青山学院大学) ・市内ゴルフ場と連携し、小学生を対象としたゴルフ教室を開催した。	市民活動部
	4 競技力強化に向けた選手・指導者の育成や世界大会・全国大会への出場支援などによる競技スポーツ環境の整備		・世界大会、全国大会出場者に対する激励会を開催し、激励金を交付した。	市民活動部
	5 スポーツコンベンションの開催支援などによるブロック(中部・東海等)レベル以上の大会誘致の促進	1. 飛騨高山にひとを呼び込む (2)スポーツ環境、保養環境等の整備 ①コンベンション誘致の推進 ・多様なコンベンション誘致を図るため、国内外のMICE(マイス:多くの集客交流が見込まれるビジネスイベント等の総称)、全国や中部・東海ブロック規模のスポーツ大会の開催に係る支援などを実施する。	★高山市内で開催される大会や会議、研修会、スポーツ大会などに対する支援を行った。	商工観光部
	6 「飛騨高山ブラックブルズ岐阜」、「FC岐阜」への支援や市民とのふれあい活動の促進		・飛騨高山ブラックブルズ岐阜に対する支援を行い、市民とのふれ合いを促進した。 小中高生へのハンドボール指導 ファン感謝デーの開催 ・FC岐阜との連携により、市民とのふれ合いを促進した。 幼児小学生への指導 高齢者を対象とした健康教室 長良川競技場における高山市PR	市民活動部
	7 トップアスリートとの交流機会の創出などによる市民競技力の向上		・トップレベルの選手によるスポーツ教室を開催した。 ハンドボール(飛騨高山ブラックブルズ岐阜)、サッカー(FC岐阜)、長距離走、卓球、バレーボール、ソフトテニス、剣道教室、陸上クリニック(青山学院大学) ・市内ゴルフ場と連携し、小学生を対象としたゴルフ教室を開催した。	市民活動部
	8 スポーツ施設の無料開放などによるスポーツ機会の充実		・飛騨高山ビッグアリーナを毎月1回(夜間)無料開放し、市民がスポーツに親しむ機会を提供した。	市民活動部
(2) 施設の整備	1 社会・市民ニーズを踏まえた整備などによるスポーツ施設の安全性・利便性の向上		・公共施設等総合管理計画を踏まえたスポーツ施設整備計画を策定した。	市民活動部
	2 インターネット予約やスポーツに関する情報提供などによるスポーツ施設の利用促進		・インターネットによる施設予約システムを更新し、利用者の利便性向上を図った。	市民活動部

(3) 高地トレーニングエリアの整備	1	国内外のトップアスリートの受入れや様々な競技種目に対応できる施設の整備・充実などによる受入機能の強化	1. 飛騨高山にひとを呼び込む (2) スポーツ環境、保養環境等の整備 ② 高地トレーニングエリアの整備・活用 ・高地トレーニングエリアにおける受入機能の充実を図り、さらなる利用者の増加を図るため、国内外のトップアスリートの受入れや様々な競技種目に対応できる施設・設備の整備を進める。	★ 中長距離競技だけではなく、他の競技団体からの意見を聴取し、必要な備品等の整備を実施した。 ★ 高地トレーニングエリアにおける民間事業者の受入態勢を促進するため、企業立地支援制度を拡充した。	市民活動 商工観光
	2	国内外への情報発信などによる施設利用の拡大	1. 飛騨高山にひとを呼び込む (2) スポーツ環境、保養環境等の整備 ② 高地トレーニングエリアの整備・活用 ・また、アスリートのみならず幅広い利用者層の獲得を図るため、高地トレーニングエリアを活用したスポーツイベントの開催や、誰でも楽しめるスポーツ・レクリエーションエリアの整備を進める。	・ホームページによるPRや合宿誘致活動により、利用促進を図った。 ・市内小中高生の高地トレーニングエリア利用に対する助成制度を創設した。 ★ 高地トレーニングエリアにおいて、地域振興につながる民間事業者の事業の展開を促進するため、企業立地支援制度を拡充した。	市民活動 商工観光
	3	講習会や研修会の開催などによる科学的トレーニングの普及啓発活動の推進	1. 飛騨高山にひとを呼び込む (2) スポーツ環境、保養環境等の整備 ② 高地トレーニングエリアの整備・活用 ・また、アスリートのみならず幅広い利用者層の獲得を図るため、高地トレーニングエリアを活用したスポーツイベントの開催や、誰でも楽しめるスポーツ・レクリエーションエリアの整備を進める。	・高地トレーニング環境システム研究会が毎年開催するシンポジウムに参加した。 ★ 高地トレーニングエリアにおいて、地域振興につながる民間事業者の事業の展開を促進するため、企業立地支援制度を拡充した。	市民活動 商工観光
	4	受入れサポートやおもてなしなどによるアスリートと地域住民との交流の促進	1. 飛騨高山にひとを呼び込む (2) スポーツ環境、保養環境等の整備 ② 高地トレーニングエリアの整備・活用 ・また、アスリートのみならず幅広い利用者層の獲得を図るため、高地トレーニングエリアを活用したスポーツイベントの開催や、誰でも楽しめるスポーツ・レクリエーションエリアの整備を進める。	・青山学院大学陸上競技部による中学校陸上部員を対象とした陸上クリニックを開催した。 ★ 高地トレーニングエリアにおいて、地域振興につながる民間事業者の事業の展開を促進するため、企業立地支援制度を拡充した。	市民活動 商工観光

4 担当部局による総合計画の評価

担当部局		市民活動部／商工観光部	
施策	第八次総合計画の検証(成果と課題)		今後の取り組み・方向性
(1) スポーツ活動の充実	【市民活動部】 ・軽スポーツ広場の開催など、市民がスポーツに親しむ環境の整備に取り組んだが、市民満足度は低い結果となったため、引き続き環境の整備に取り組む必要がある。 ・トップレベルの選手によるスポーツ教室等により、子どもが様々なスポーツに取り組む場を提供することができた。 【商工観光部】 ・コンベンションやスポーツ大会の積極的な誘致活動により、誘致件数は年々増加している。	【市民活動部】 ・軽スポーツ広場の開催とともに、障がい者や高齢者が気軽に実施することができる競技の普及に取り組む。 ・子どもがトップレベルの選手に触れ合う機会を創出する。 【商工観光部】 ・全国規模のコンベンションやスポーツ大会、国際会議の誘致活動を積極的に実施する。	
(2) スポーツ施設の整備	【市民活動部】 ・公共施設等総合管理計画を踏まえたスポーツ施設整備計画を策定し、野球場、サッカー競技場の整備、市民プールの再整備の方針を明記した。	【市民活動部】 ・公共施設等総合管理計画及びスポーツ施設整備計画に基づき、施設整備や統廃合をすすめる。	
(3) 高地トレーニングエリアの整備	【市民活動部】 ・高地トレーニングエリアの施設や機器などの環境整備と利用促進を図った。 ・利用者のほとんどが、陸上競技(中長距離)であり、利用時期が夏季に集中しているため、1年を通じた利用の促進(陸上以外の競技の誘致)を図る必要がある。 ・世界的にも評価の高い高地トレーニングエリアが身近にありながら、市内の中高生やスポーツ少年団、民間スポーツ団体の利用が少ないため、利用を促進する必要がある。 【商工観光部】 ・民間事業者の参入を促進するため、企業立地支援制度の拡充を行った。	【市民活動部】 ・様々な競技団体の意見を聞きながら、トレーニング環境の充実を図る。 ・様々な競技団体の誘致活動を行い、1年を通じた利用者確保に取り組む。 ・市内の中高生やスポーツ少年団、民間スポーツ団体による高地トレーニングエリアの利用促進を図る。 【商工観光部】 ・支援制度により、意欲ある民間事業者の参入を促進する。	

高山市第八次総合計画 施策評価シート

第八次総合計画	基本分野	3 教育・文化	基本目標	生きがいと誇りを持ち豊かな心を育むまち	個別分野	文化芸術
	主要課題	・誰もが文化芸術を身近に感じ、主体的に取り組むことができる環境を整える必要があります。 ・文化芸術の持つ力がまちづくりに活かされる仕組みをつくる必要があります。				
	目指す姿	・暮らしの中に文化芸術が息づき、市民が心豊かに暮らしています。 ・市民が主体となって新たな文化芸術を創造しています。				
	取り組みの方向性	・文化芸術について学ぶ機会の充実や文化芸術活動の場の充実などにより文化芸術に親しむ機会の充実を図ります。 ・市民が主役の文化芸術の創造・振興の促進や文化芸術活動を担う人材の育成などにより文化芸術活動を促進します。 ・地域の誇りと愛着の醸成や教育・産業等の様々な分野における創造性の促進などにより文化芸術が薫るまちづくりを推進します。				
対応する総合戦略事業※	基本目標		具体的な施策			主な事業
	3. 住みやすく働きやすい飛騨高山をつくる		(5) 地域人材が育つ環境の整備			②文化芸術活動の促進

※高山市まち・ひと・しごと創生総合戦略

1 指標の推移

指標名	単位	まちづくり指標	市民満足度指標	総合戦略基本目標	総合戦略KPI	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	
													H31(中間)	R6
1 市の公募美術展への出品点数(年間)	点	●				1,341	889	1,047	1,167	1,185	902	967	1,520	1,650
2 文化施設利用者数(年間)	人	●			●	414,387	416,087	417,233	417,773	410,403	412,408	352,548	462,000	503,000
3 「文化芸術分野」の公民館登録団体数	団体	●				168	163	159	149	147	142	134	180	200
4 「文化芸術を鑑賞したり、活動が支援されて発表したりできる環境が整っている」と感じている市民の割合	%		●			-	56.3	-	50.6	51.6	49.8	57.4	↗	↗

2 市民アンケートの結果

	市の取り組みに対する満足度				今後の重要課題			
	「文化芸術を鑑賞したり、活動が支援されて発表したりできる環境が整っている」と感じている市民の割合				文化芸術の振興			
H26	回答比率	56.3%	順位 (34項目中)	18位	回答比率	1.1%	順位 (20項目中)	20位
H28	回答比率	50.6%	順位 (34項目中)	19位	回答比率	1.3%	順位 (20項目中)	20位
H29	回答比率	51.6%	順位 (34項目中)	20位	回答比率	1.3%	順位 (20項目中)	20位
H30	回答比率	49.8%	順位 (34項目中)	20位	回答比率	1.1%	順位 (20項目中)	20位
H31	回答比率	57.4%	順位 (36項目中)	14位	回答比率	1.0%	順位 (20項目中)	20位
R2	回答比率	51.1%	順位 (36項目中)	19位	回答比率	1.3%	順位 (20項目中)	20位
順位の変化に見る現状の評価	満足度の順位は下降しており、取り組みが十分ではないと感じる市民が増えている							
R2の調査結果に見る施策の方向性	満足度の順位が下位で、重要度の順位は下位 → <改善>満足度、重要度とも高い水準にないため、事業を継続しながら、内容の工夫等により対応すべき							

3 総合計画の取り組みの概要(総合戦略を含む)

施策	施策の内容	★総合戦略の対応箇所	これまでの取り組み	
			取り組み内容(戦略に対応する項目には★印)	担当 部局
(1) 文化芸術に親しむ機会の充実	1 多様な媒体を活用した情報発信などによる文化芸術について学ぶ機会の充実		・広報、ホームページ、メール配信サービスなどを活用した文化芸術活動に関する情報発信を行い、学ぶ機会を提供した。	市民活動部
	2 美術展覧会や芸術鑑賞事業などによる優れた文化芸術に触れる機会の充実		・市美術展覧会、国際現代木版画展、臥龍桜日本画大賞展の開催や市有美術品の展示、市民文化芸術鑑賞事業の実施など文化芸術にふれる機会を提供した。	市民活動部
	3 入門・体験講座の開催や芸術家との交流などによる幅広い年齢層の文化芸術活動の体験機会の充実		・めでの講座などの生涯学習講座や子どもの夢を育む事業の開催などにより、体験機会を提供した。	市民活動部
	4 文化会館等の文化施設の整備や施設の利便性の向上、公共施設・民間施設・自然空間の活用促進などによる文化芸術活動の場の充実		・施設の安全管理のための定期点検や計画的な修繕・改修により、施設の安全性や利便性の向上を図るとともに、活用促進に向けた施設管理者との意見交換会を開催した。	市民活動部
(2) 文化芸術活動の促進	1 飛騨高山文化芸術祭の開催などによる市民が主役の文化芸術の創造・振興の促進	3. 住みやすく働きやすい飛騨高山をつくる (5) 地域人材が育つ環境の整備 ②文化芸術活動の促進 ・また、市民が主役の文化芸術の創造・振興を促進するため、飛騨高山文化芸術祭などの事業を実施する。	★飛騨高山文化芸術祭(3年に1度開催)を開催した(H28、H31)。	市民活動部
	2 文化の創造活動や伝統文化の保存への新たな支援制度の仕組みづくりの推進		・新たな支援制度のしくみづくりについて、先進事例を参考に検討をすすめた。	市民活動部
	3 文化芸術活動団体への活動支援や子どもの夢を育む事業などの開催による自主的な文化芸術活動の促進	3. 住みやすく働きやすい飛騨高山をつくる (5) 地域人材が育つ環境の整備 ②文化芸術活動の促進 ・自主的な文化芸術活動を促進するため、文化芸術活動団体の活動に対する支援、子どもの夢を育む事業などを実施する。	★文化芸術活動団体に対する支援を行った。 ★子どもの夢を育む事業を開催した。	市民活動部
	4 文化芸術活動者の激励・顕彰や指導者の育成、文化ボランティアへの支援などによる文化芸術を担う人材の育成		・市民文化ボランティアを活用したほか、文化芸術活動に優れた業績をあげた市民の激励・奨励・顕彰を行った。	市民活動部
	5 文化祭・芸能祭等の開催などによる自主的な発表活動の支援		・飛騨高山文化芸術祭や市美術展覧会等の開催により、活動発表の場を設けた。	市民活動部
	6 伝統文化に対する意識の醸成や失われつつある伝統的な文化芸術を復興する取り組みなどによる文化芸術の保存・継承		・めでの講座や版画講座などの生涯学習講座を開催したほか、市民の文化芸術活動事業に対する支援を行った。	市民活動部
	7 文化芸術活動団体や産学官の連携などによる文化芸術を支える体制の強化		・新たな公民館登録団体を募集した。 ・大学と連携して生涯学習講座等を開催した。	市民活動部
(3) 文化芸術が薫るまちづくり	1 本市固有の風習等の生活文化の継承などによる地域の誇りと愛着の醸成		・めでの講座など生涯学習講座を開催した。	市民活動部
	2 文化芸術活動を通じた市民相互の交流や国内外の姉妹・友好都市等との交流の促進		・飛騨春慶弦楽器の演奏会をイタリア・クレモナ市で開催した。 ・市民女声合唱団によるアメリカ・デンバー市やペルー共和国・ウルバンバ郡での公演、デンバー市民による市民音楽団体への指導等を行った。 ・国内の姉妹・友好都市への郷土芸能派遣や市民ツアー訪問などにより、歴史文化、観光などの相互理解を深め、文化交流の促進を図った。	市民活動部
	3 文化性を備えたデザインや伝統的技術の活用などによる教育・産業等の様々な分野における創造性の促進		・飛騨春慶弦楽器の演奏会を小中学校など市内各所で開催した。	市民活動部

4 担当部局による総合計画の評価

担当部局		市民活動部	
施策	第八次総合計画の検証(成果と課題)		今後の取り組み・方向性
(1)文化芸術に親しむ 機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの美術展覧会や文化芸術鑑賞事業を開催し、市民に優れた文化芸術に親しむ機会を提供できた。 ・文化芸術分野の象徴的なイベントとして飛騨高山文化芸術祭を開催し、市民一人ひとりが主役の文化芸術の創造・振興を図った。 ・定期点検による施設の安全管理や計画的な修繕・改修を行うことにより、施設の安全性や利便性が向上した。 ・より多くの市民に親しまれるよう、展覧会等のあり方について検討する必要がある。 ・市民のニーズや施設の利用状況、緊急性等を踏まえ、計画的な施設整備をすすめる必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民に親しまれる展覧会等になるよう、市民への効果的な周知を行うとともに、出展者や来場者、運営に携わる方などの意見を検証し、あり方等について検討をすすめる。 ・文化活動の拠点となる施設の安全管理を徹底するとともに、計画的な施設の修繕・改修をすすめる。
(2)文化芸術活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術活動団体に対する支援により、市民の自主的な文化芸術活動が盛んに行われるようになった。 ・市民が主役の飛騨高山文化芸術祭の開催により、市民の文化芸術の創造・振興が図られた。 ・市民の文化芸術活動に対する支援のあり方等について、検討する必要がある。 ・飛騨高山文化芸術祭の成果、課題を洗い出し、より効果的な開催に向けた検証が必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・市民の文化芸術活動に対する支援のあり方等について、活動団体等の意見を踏まえた検討をすすめる。 ・飛騨高山文化芸術祭を振り返り、課題等の洗い出し、次回開催に向けた検討をすすめる。
(3)文化芸術が薫るまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・めでた講座などの生涯学習講座を開催し、地域の誇りと愛着の醸成が図られた。 ・イタリア・クレモナ市での飛騨春慶弦楽器の演奏会の開催や国内外の姉妹・友好都市での市民団体による公演等により市民相互の交流が図られた。 ・優れた文化芸術にふれる機会の充実を図る必要がある。 ・国内の姉妹・友好都市への市民ツアーや市民団体の相互訪問により、お互いの歴史文化や魅力を体験する機会を通じた交流が図られた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・優れた文化芸術にふれる機会の充実を図る。 ・姉妹・友好都市との交流を促進するとともに、より一層の交流を促進する方策について検討をすすめる。

高山市第八次総合計画 施策評価シート

第八次総合計画	基本分野	3 教育・文化	基本目標	生きがいと誇りを持ち豊かな心を育むまち	個別分野	歴史文化
	主要課題	・文化財の老朽化対策や耐震化などを推進する必要があります。 ・祭行事や伝承芸能などの担い手・後継者を育成する必要があります。 ・歴史や文化財などに関する知識や保存意識を高める必要があります。				
	目指す姿	・文化財が地域の大切な財産として保存・継承・活用され、市民が郷土の歴史と伝統文化に誇りを持っています。				
	取り組みの方向性	・文化財の適正な管理や伝統的建造物の保存・活用の推進などにより文化財の保存・継承をすすめます。 ・郷土の歴史・文化の語り部の育成や伝統文化についての意識の向上などにより歴史・文化を活用した地域づくりをすすめます。 ・郷土教育の推進や学習環境の整備などにより歴史・文化に親しみ理解する機会の充実を図ります。				
対応する総合戦略事業※	基本目標		具体的な施策			主な事業
	3. 住みやすく働きやすい飛騨高山をつくる		(5) 地域人材が育つ環境の整備			③歴史・文化の保存・活用

※高山市まち・ひと・しごと創生総合戦略

1 指標の推移

指標名	単位	まちづくり指標	市民満足度指標	総合戦略基本目標	総合戦略KPI	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	目標値	
													H31(中間)	R6
1 美しいふるさとの認証団体数	団体	●				52	70	90	112	119	127	131	150	200
2 重要伝統的建造物群保存地区内の修理・修景の実施済割合	%	●				58.7	60.5	62.5	64.3	66.3	68.3	68.7	75	90
3 歴史ガイドマスターの登録者数	人	●		●		-	-	0	0	0	0	0	20	30
4 飛騨高山まちの博物館の来館者数(年間)	人	●				183,304	154,217	180,362	182,316	184,273	179,806	195,859	225,000	232,000
5 「文化財や伝承芸能が保存・継承され、郷土の歴史文化に誇りを持っている」と感じている市民の割合	%	●	●			-	75.7	-	73.6	79.4	78.3	75.7	↗	↗

2 市民アンケートの結果

	市の取り組みに対する満足度				今後の重要課題			
	「文化財や伝承芸能が保存・継承され、郷土の歴史文化に誇りを持っている」と感じている市民の割合				伝統文化の保存・活用			
H26	回答比率	75.7%	順位 (34項目中)	5位	回答比率	4.8%	順位 (20項目中)	17位
H28	回答比率	73.6%	順位 (34項目中)	8位	回答比率	5.7%	順位 (20項目中)	15位
H29	回答比率	79.4%	順位 (34項目中)	6位	回答比率	5.5%	順位 (20項目中)	15位
H30	回答比率	78.3%	順位 (34項目中)	6位	回答比率	4.9%	順位 (20項目中)	16位
H31	回答比率	75.7%	順位 (36項目中)	7位	回答比率	3.8%	順位 (20項目中)	17位
R2	回答比率	74.3%	順位 (36項目中)	6位	回答比率	4.6%	順位 (20項目中)	16位
順位の変化に見る現状の評価	満足度の順位が下降、重要度の順位が上昇 → 課題があり、改善が強く望まれている							
R2の調査結果に見る施策の方向性	満足度の順位が上位で、重要度の順位は下位 → <維持>重要度は高い水準にはないため、事業を継続しながら、内容の工夫等により対応すべき							

3 総合計画の取り組みの概要(総合戦略を含む)

施策	施策の内容	★総合戦略の対応箇所	これまでの取り組み	
			取り組み内容(戦略に対応する項目には★印)	担当部局
(1) 文化財などの保存・継承	1 所有者や保存団体への支援などによる文化財の適正な管理		・伝統的建造物群保存地区保存会、高山屋台保存会、伝承芸能保存団体、史跡保存会等の活動に対する支援を行った。	教育委員会
	2 伝統的建造物及びその周辺の環境の調査・再評価による重要伝統的建造物群保存地区拡大の推進		・文化庁と協議し、重要伝統的建造物群保存地区の拡大に向けて町並みや伝統的建造物の再評価を行った。	教育委員会
	3 重要伝統的建造物群保存地区などにおける修理・修景や防災対策による歴史的町並み再生の推進		・建築物の修理修景、土蔵等修理に対する支援を行った。	教育委員会
	4 天然記念物や史跡等の保存環境の整備などによる保護活動の充実		・国指定天然記念物「臥龍のサクラ」や、市指定天然記念物「小鳥峠ミズバショウを含む湿原植物群」などの保護・保存を行った。	教育委員会
	5 歴史的に価値ある建造物・遺跡・伝承芸能・歴史資料等の公開などによる活用の推進		・飛騨高山まちの博物館で特別展を開催し、国指定重要文化財等の歴史資料を展示公開した。	教育委員会
	6 高山城・松倉城などの史跡の保存・活用		・国指定に向けた松倉城跡、広瀬城跡の現況測量調査を行った。 ・松倉城跡の確認調査を行った。	教育委員会
	7 後継者の育成や映像記録等の作成などによる郷土の伝統文化の継承		・ふるさと伝承記録の制作を行った。 ・伝承芸能保存団体に対する支援を行った。	教育委員会
	8 市史の発刊・活用や先人の偉業の顕彰・啓発などによる郷土教育の充実		・「高山市史」を発刊した。 ・市史に係る展示や講座を開催した。	教育委員会
	9 景観町並保存連合会との協働などによる町並み保存の意識啓発		・景観町並保存連合会と協働し、広報紙等による町並み保存の啓発を行った。 ・商店街等を巡回し、屋外広告物のルール等の啓発、違反広告物の是正指導を実施した。	教育委員会 都市部
	10 建築基準法等の規制緩和や伝統構法木造建築物耐震化マニュアルの運用などによる伝統的建造物の保存・活用の推進		・高山市伝統構法耐震化マニュアルの講習会を開催した。 ・建築基準法等の規制緩和を検討するため、全国の事例について情報収集を行った。 ・伝統構法木造建築物耐震化マニュアルに基づき昭和25年11月23日以前に建築された伝統構法木造建築物の耐震診断・耐震改修に対する支援を行った。	教育委員会 都市政策部
	11 美しいふるさと認証制度などによる郷土愛の醸成や保護活動の促進		・美しいふるさと認証制度により、131団体を認証した。	教育委員会
(2) 歴史・文化を活用した地域づくり	1 歴史ガイドマスターを活用した研修などによる郷土の歴史・文化の語り部の育成	3. 住みやすく働きやすい飛騨高山をつくる (5) 地域人材が育つ環境の整備 ③歴史・文化の保存・活用 ・郷土の歴史・文化の語り部を育成するため、歴史ガイドマスターを活用した研修などを実施する。	★郷土の歴史・文化の語り部を養成する講座を開催した。	教育委員会
	2 旧森邸等の拠点施設整備などによる歴史的風致の維持向上		・「飛騨高山まちの体験交流館」を整備した。	教育委員会
	3 耐震化の促進や自主防災組織等の活動支援などによる人と文化財を守る防災体制の充実		・伝建地区内の防災備品の更新を行った。 ・高山市政記念館の耐震調査を行った。 ・伝統構法木造建築物耐震化マニュアルに基づき、昭和25年11月23日以前に建築された伝統構法木造建築物の耐震診断・耐震改修に対する支援を行った。	教育委員会 都市部
	4 越中街道や平湯街道等の整備などによる歴史的な街道や街道沿いの農山村集落の保存・活用の推進		・野麦街道や位山道など歴史的な街道の調査及び整備を行った。	教育委員会
	5 「高山祭の屋台行事」のユネスコ無形文化遺産への登録に向けた取り組みなどによる伝統文化についての意識の向上		・「高山祭の屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録された。 ・登録を記念したセレモニーや屋台の総曳き揃えを開催し、伝統文化の啓発を行った。	教育委員会
	6 歴史文化遺産の価値の調査などによる新たな地域資源としての評価・活用	3. 住みやすく働きやすい飛騨高山をつくる (5) 地域人材が育つ環境の整備 ③歴史・文化の保存・活用 ・また、歴史文化遺産を新たな地域資源として活用を図るため、歴史文化遺産の価値の調査などを実施する。	・国指定に向けた松倉城跡、広瀬城跡の現況測量調査を行った。 ・松倉城跡の確認調査を行った。 ・市史の編纂に伴う歴史遺産の調査、評価を行った。	教育委員会

み(3) 理解する歴史機・会の文化に親し	1	飛騨高山まちの博物館をはじめとする文化財関連施設における展示や歴史資料の活用、景観町並保存会等の各種団体や学校・地域との協働などによる郷土教育の推進	3. 住みやすく働きやすい飛騨高山をつくる (5) 地域人材が育つ環境の整備 ③ 歴史・文化の保存・活用 ・町並保存会等の各種団体や学校・地域との協働等による郷土教育を推進する。	・飛騨高山まちの博物館において年4回の特別展を開催した。 ★景観町並保存連合会と協働し、子どもたちを対象とした伝建地区や景観保存区域の歴史や伝統文化の学習活動を行った。	教育委員会
	2	歴史散策ルートの整備や標柱・説明看板等の設置などによる歴史文化を学ぶ環境の整備		・文化財説明看板の設置や多言語化を行った。	教育委員会
	3	啓発冊子の発行や講座の開催などによる郷土の歴史や伝統文化に関する知識や認識の向上		・郷土に関わる歴史講座を開催した。	教育委員会

4 担当部局による総合計画の評価

担当部局		教育委員会／都市政策部	
施策	第八次総合計画の検証(成果と課題)		今後の取り組み・方向性
(1) 文化財などの保存・継承	【教育委員会】 ・指定文化財の保存や活用を図るとともに、郷土の歴史資料の公有化を通じて散逸を防止し、展示公開や調査研究資料として活用した。 ・無形文化財を記録保存し、保存、継承につなげた。 ・伝統的建造物群保存地区保存会などの活動支援、建築物の修理修景や土蔵等修理に対する支援などにより、歴史的な町並みの保全が図られた。 ・人口減少や高齢化などにより、地域の文化遺産を守り続けることが困難となっている。 【都市政策部】 ・建築基準法等の規制緩和を検討するため、全国の事例について情報収集を行った。 ・伝統構法木造建築物耐震化マニュアルに基づき、昭和25年11月23日以前に建築された伝統構法木造建築物の耐震診断・耐震改修に対する支援を行った。		【教育委員会】 ・歴史資料の散逸防止、資料の公開活用や記録保存の取り組みをすすめる、文化財の保存や活用を図る。 ・地域の文化遺産を守り続けるための人的、財政的支援のあり方について検討をすすめる。 ・重要伝統的建造物群保存地区の拡大に向けた調査、評価をすすめる。 ・文化財等を適切に保存するため、文化財等の収蔵体制の検討をすすめる。 【都市政策部】 ・建築基準法等の規制緩和について、要否を含めた検討をすすめる。 ・伝統構法木造建築物の耐震診断・耐震改修に対する支援などにより、安全性の確保と伝統技術の継承を図る。
(2) 歴史・文化を活用した地域づくり	【教育委員会】 ・平成28年に「高山祭の屋台行事」のユネスコ無形文化遺産登録、「飛騨の匠の技・こころ」の日本遺産認定を受け、記念事業の実施や日本遺産の普及啓発事業を実施した。 ・無形文化遺産登録や日本遺産の認定を一過性のものとせず、市民の歴史文化への理解促進、観光客等に対するPRを通じて、地域ブランド力の向上と地域活性化を図る必要がある。 【都市政策部】 ・伝統構法木造建築物耐震化マニュアルに基づき、昭和25年11月23日以前に建築された伝統構法木造建築物の耐震診断・耐震改修に対する支援を行った。		【教育委員会】 ・地元住民への啓発、歴史的価値の再発見と再評価により、歴史遺産の保存と活用を図る。 ・ユネスコ無形文化遺産、日本遺産の普及啓発とさらなる活用を図る。 【都市政策部】 ・伝統構法木造建築物の耐震診断・耐震改修に対する支援などにより、安全性の確保と伝統技術の継承を図る。
(3) 歴史・文化に親しみ理解する機会の充実	【教育委員会】 ・歴史講座の開催や展示施設の維持管理を通じ、市民が郷土の歴史に親しめる環境づくりを行うとともに、文化財説明看板の計画的な設置・更新、多言語化を行い、見学者の利便性向上が図られた。 ・地域の歴史を正しく伝えられる「語り部」の育成が求められている。		【教育委員会】 ・歴史講座や展示の充実を図ることにより、郷土の歴史を学ぶ機会の充実を図る。 ・多言語化表記を含めた計画的な文化財説明看板の設置をすすめる。 ・「語り部養成講座」を開催し、市民や観光客に地域の歴史を正しく伝えられる人材の育成を図る。